

公表

事業所における自己評価総括表(放デイ)

○事業所名	StepUP蒔田通町教室		
○保護者評価実施期間	2025年10月1日		～ 2025年11月30日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	37	(回答者数) 23
○従業者評価実施期間	2025年10月1日		～ 2025年11月1日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7	(回答者数) 7
○事業者向け自己評価表作成日	2026年2月25日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	未就学児から高校生までの幅広い年齢層を受け入れていることにより、学校や家庭だけでは得にくい異年齢交流の機会を創出している。年上児は思いやりやリーダーシップを発揮し、年下児は安心感を得ながら模倣することで、周囲を意識する力や協調性、他者への配慮といった社会性の向上につながっている。	未就学児と中学生で基本的な利用時間の枠を設けつつも、交流の機会を意図的に確保するため、小学生や中学生など異なる学年が同じ時間帯に活動できるよう調整している。年齢差のある関わりが自然に生まれる環境を整えることで、相互に学び合い支え合う経験の充実を図っている。	引き続き異年齢児の同時時間帯利用を取り入れながら、安全面に配慮した空間設定や動線の見直しを行い、事故予防を徹底していく。あわせて定期的な職員研修を実施し支援力の向上を図るとともに、玩具の共有や関わりの場面では職員が適切に仲立ちし、児童同士の円滑な交流を促進していく。
2	曜日ごとに特色あるプログラムを設定し、日々異なる学びの機会を提供している。本年度より火曜日にはスキル向上を目的とした講座、金曜日にはeスポーツを取り入れた活動を開始し、従来の療育に加えて多様な興味や得意を伸ばせる内容へと発展させている。	火曜日と金曜日の専門的な活動のみの利用とならないよう、他曜日に実施している運動やコミュニケーションのプログラムと組み合わせる形で参加してもらおう形をとっている。特定分野に偏らず多角的に経験を積めるよう調整し、バランスよく力を伸ばせる利用形態を意識している。	各講座での学びが相互に関連づくような内容の運動を図り、到達目標や成長の過程を職員間で共有していく。また、定期的な振り返りの機会を設け、児童の興味や課題に応じて受講バランスを見直すことで、より効果的かつ継続的な力の育成につなげていく。
3	SSTを軸とした集団療育を展開し、運動面と対人面の双方に働きかける支援を行っている。運動活動では多様な身体調整力を養い、コミュニケーション活動では認知や生活面、言語理解、人間関係などをテーマに扱う。内容を固定せず日々変化を持たせたプログラム構成とし、児童の興味や発達に応じた学びの機会を確保している。	活動内容が偏らないよう職員間で定期的に意見交換を行い、子どもの発達段階や特性に合わせてプログラムを組み立てている。コミュニケーション領域では、個別課題による理解の定着に加え、協働して取り組むグループ活動も取り入れ、最終的に発表の機会を設けることで社会性や表現力の向上を図っている。	当日の利用児童の年齢や特性を踏まえ、職員間で情報共有と検討を重ねながら柔軟に活動内容を調整していく。異年齢での関わりを活かした支援を通して社会性の育成を図るとともに、支援方針の統一を目的とした定期的な会議や研修を継続し、職員の専門性向上とより質の高い療育の実現を目指していく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	放課後児童クラブや児童館など地域資源との連携が十分とは言えず、事業所以外の子どもたちと関わる機会が限られている状況にある。そのため地域の中での交流や多様な人との関係づくりの場が少なく、社会参加の広がりという点で課題が残っている。	地域交流への参加については保護者のニーズが高くない点に加え、週1回のSST利用を目的に通所している児童が多いことも要因となっている。特に土曜日に交流活動を設定すると通常のトレーニング機会が減少し、療育を優先したい家庭との調整が難しくなる状況が生じている。	通常療育に支障が出ない範囲で、祝日行事や地域で開催される季節イベントへの参加を検討し、段階的に地域との関わりを広げていく。夏祭りや交流行事など身近な機会を活用し、児童や保護者の負担に配慮しながら無理のない形で地域住民との接点づくりを進めていく。
2	送迎体制を設けていないため、通所は保護者による送迎に依存している状況にある。そのため保護者の就労状況や家庭の都合、悪天候などには来所が難しくなり、継続的かつ安定した利用につながりにくいケースが生じている点が課題となっている。	SSTを中心とした集団療育を時間設定に沿って実施しているため、活動中は多くの職員が支援に配置される必要がある。その結果、送迎に割ける人員の確保が難しく、仮に送迎を行う場合でも療育開始時刻への到着調整が困難となるなど、運営面での制約が生じている。	移動支援事業所やガイドヘルパー等の関係機関と連携を図り、通所手段に課題を抱える家庭へ利用可能なサービスの情報提供を行っていく。また法人内でも送迎方法の在り方を検討し、実施可能な範囲で体制整備を進めることで、保護者の送迎負担の軽減と安定した通所の確保につなげていく。
3			

公表

保護者等からの事業所評価の集計結果(放デイ)

事業所名	StepUP両田通町教室
------	--------------

公表日 2026年3月15日

利用児童数 37

回収数 23

	チェック項目	評価				ご意見	ご意見を踏まえた対応
		はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない		
環境・ 体制 整備	1 子どもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	22	1	0	0		
	2 職員の配置数は適切であると思いますか。	17	3	1	2	・出入りがあるようだけれど、どのような人がいるのかわからない不透明さを感じる。	・通信で職員紹介を行い、できるだけどのような職員が在籍しているかを分かるようにした。
	3 生活空間は、子どもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	8	7	2	6		
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	23	0	0	0		
適切 な 支 援 の 提 供	5 子どものことを十分に理解し、子どもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	20	2	0	1		
	6 事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	23	0	0	0		
	7 子どものことを十分理解し、子どもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、放課後等デイサービス計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	22	1	0	0		
	8 放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	16	2	0	5		
	9 放課後等デイサービス計画に沿った支援が行われていると思いますか。	23	0	0	0		
	10 事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	22	0	1	0	・いろいろなイベントがあるので子供も楽しめています。 ・溪検の実施も朗報です。	運動トレーニングやコミュニケーショントレーニングだけではなく、イベントなども新しい取り組みを入れている。
	11 放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他の子どもと活動する機会がありますか。	2	2	10	9	・交流はないと子どもに聞いていますが、特に必要とは思いません。 ・学校で交流もある為、必要性を感じない。	保護者様の意見に耳を傾けながら、少しでも何かしらの交流やイベントに参加していきたい。
保 護 者 へ の 説 明 等	12 事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	22	1	0	0		
	13 「放課後等デイサービス計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	23	0	0	0		
	14 事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	8	12	3	0		
	15 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの健康や発達の状況について共通理解ができていますか。	18	3	1	1	・HUGでの連絡が詳しく書かれているので用紙が想像できて楽しいです。 ・活動報告のきめ細やかさが薄く感じる。個々の課題、できるようになったことが少なく、プログラムアピールが多い。	今後はこれまで以上に児童1人ひとりの課題や、その日に出来たこと出来なかったことを詳細にお伝えしていく。
	16 定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	21	1	1	0	・先出のデイサービス計画云々と共に、面談時にしっかり聞いてもらえるので助かっています。	
	17 事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	23	0	0	0		
	18 父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいの支援がされていますか。	5	6	5	7	・保護者同士の交流はないが、面談等で家族も支援してもらっていると思います。 ・保護者同士の連携はなくても良いと思う。	家族参加型のイベントを定期的に開催しているので、継続しつつ保護者様同士でも気軽に話せる環境をつくってきたい。
	19 子どもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、子どもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	14	5	0	4		
	20 子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	19	3	0	1		
	21 定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されていますか。	18	1	1	3		
22 個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	21	1	0	1			

非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	15	4	1	3		
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その必要な訓練が行われていますか。	23	0	0	0		
	25	事業所より、こどもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	23	0	0	0		
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	23	0	0	0		
満足度	27	こどもは安心感をもって通所していますか。	19	3	1	0		
	28	こどもは通所を楽しみにしていますか。	17	4	0	2	・受けたいプログラムが学校で決められた時間より遅いため、参加できない。 ・職員の退職で不安に感じているようです。 ・毎週とても楽しみにしている。	1月から時間割やカリキュラムを新しくしたことによるご意見があるので、どのようにすれば多く通って頂けるかを職員一同検討していきたい。
	29	事業所の支援に満足していますか。	17	5	1	0	・午前、午後どちらかを遊ぶイベントは昼食をとる時間などを考えると利用しにくい。 ・本人に良い変化が見られているので、通わせて良かったと思っています。	保護者様のニーズにできるだけ沿った内容に出来るように模索していく。昼食を事業所でするようなイベントも実施していく。

公表

事業所における自己評価結果(放デイ)

事業所名		StepUP時田通町教室		公表日		2026年 3月 15日	
環境・体制整備	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点		
	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	7	0	イベントなど場合によっては狭いと感ずることもあるが、活動内容に応じては児童人数を減らして受け入れをするなど工夫をしている。	クールダウンスペースの確保が難しい時がある。	
2	利用定員やこどもの状態等に対して、 職員の配置数は適切であるか。	7	0	出勤シフトも管理者と児発管で二重チェックをし、配置基準を確実に満たすようにしている。児童人数に応じて職員を追加したりと、月途中でも変更を行っている。			
3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	4	3	フロアマットの色で各ゾーンを分け分りやすいようにしている。スケジュールの見通しがもてるように1ヶ月先のカレンダーを掲示している。			
4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	7	0	職員、児童とも入室したら手洗いを徹底している。毎日掃除消毒を行い、汚れていないかを確認している。			
5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	7	0	痲癩をおこした児童や、パニックになった児童は個室に、基本的に同性職員と入室し落ち着くまで使用することがある。	職員人数に余裕がない時にどの様に対応するかを日頃より職員内で話し合う必要がある。		
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	7	0	月に1回の全体会議で目標と振り返りを行い、質疑応答など話し合いを行っている。		
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	6	1	保護者様からお申し付けや意見を頂戴した際には、すぐに職員内で共有をして今後の対策や取り組みについて話し合いをしている。	定期的にごちからからのアンケートや意見調査、求めているものなどをお聞きしていきたい。	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	7	0	3か月に1回管理者面談と、半年に1回児発管面談を行っている。その他にも毎月支援会議を行い支援の方針などにも意見を様々出している。		
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	3	4		今年度は公開トレーニングを行わず、近隣の事業所の方や保護者様に来てもらいトレーニングをってもらうことが出来なかった。	
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	7	0	月に1度様々な内容の研修を受けており、非常勤職員など参加できていない職員にも後日伝達研修として研修を行っている。その他の研修も同様に対応している。		
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	7	0	管理者、児発管を中心にその他の職員も含めて支援プログラムを作成し公表している。		
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	7	0			
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	7	0	毎月支援会議では常勤職員は必ず参加し、子ども一人一人のアセスメントを行い、計画の作成をしている。また、非常勤職員にも紙面で共有している。		
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	7	0	全職員が放課後等デイサービス計画はいつでも見れるようにしており、目標を踏まえながら日々の共有や打ち合わせを行っている。		
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	4	3		標準化された様々なツールを用いてのフォーマルアセスメントよりもインフォーマルアセスメントを主で使用している。	
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	7	1	ガイドラインはいつでもすぐに見られるようにしており、保護者様に説明しながら本人支援や家族支援等を設定している。		
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	7	0	担当のリーダーが個別で考えて、困った時は相談、共有をしている。また、職員で意見を出し合いながら最善の案を採用するようにしている。		
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	7	0	複数人でプログラム進行のリーダーは回っており、運動トレーニングやコミュニケーショントレーニング共に、毎日、毎時間異なるトレーニングを常勤職員みんなで固定化しないように提供している。		
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	7	0	個別活動では微細運動で折り紙を折る作業や、コミュニケーショントレーニングで個別のプリント学習も行い、集団活動では、チームでのゲームや運動、グループワークを行っている。		
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	7	0	その日のリーダーの職員から役割分担や、気を付けることについての共有を細かく具体的にしている。		

	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	6	1	常勤職員は終礼時に1日の振り返りを行っているが、非常勤職員は退勤の時間がそれぞれ異なるため、全体ではなく各々で振り返りを共有し、後日全体で共有している。	常勤職員は終礼時に1日の振り返りを行い、非常勤職員も可能な限り全体で行う。難しい場合は振り返りを後日全体で共有していく。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	7	0	個別支援計画書の目標に基づきながら、日々欠かさずに支援の記録をとり、保護者様に共有をしている。また終礼時に今日の取り組みの振り返りを行っている。	
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直し必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	7	0	毎月支援会議を行い、児童一人に対して少なくとも半年に一度の放課後等デイサービス計画の見直しを保護者様との面談を通して行っている。	
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせさせて支援を行っているか。	6	1		放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」が理解できていない職員がいれば、全職員に分かりやすく説明をしていく。
	25	子どもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	7	0	強制的なトレーニング参加ではなく、自発的なトレーニング参加を促している為、参加の有無も自分で判断し自己決定能力を養うるようにしている。	
関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	7	0	職員間で誰がふさわしいか話してから参加者を決めて、適宜参加している。また参加前に会議で話す内容を職員内で共有してから参加するようにしている。	
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	0	7		対象児童が少ない為、今後はもっと連携を増やしていきたい。
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	5	2	送迎を行っていない為、送迎時などの連絡等は学校とはない分、保護者様にご協力をしていただき、年間計画や学校行事等を教えていただいている。	必要に応じては、各学校にご連絡し連携をとってきたい。
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	2	5	必要に応じて電話等々で共有を行っている。	計画書の共有のみで止まっていたので、その他園での様子等困りごと等も情報共有していきたい。
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	5	2	卒業生や卒業生の保護者様ともご連絡をとり、年に1.2回事業所に顔を出しに来てくださる卒業生もいる。	卒業後はその後の関連機関との連携が取れないので、保護者様とも連絡をとりつつ3方向で連絡をとってきたい。
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	3	4	常勤職員は中部療育センターの見学会や研修に毎年職員を代えながら参加している。また、その後は伝達研修を全職員参加の会議時に報告している。	常勤職員に限らず、非常勤職員も機会があれば積極的に参加していきたい。助言や研修は受けることのできるタイミングを見つけて参加していく。
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	0	7		必要としない保護者様も多く、現在は機会がないが近隣のお祭りなどにイベントとして行く計画なども考えていきたい。
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	6	1	南区の連絡会などできるだけ参加している。	連絡会など参加しているかどうかなどを非常勤職員などは知らない為、しっかりと説明していく必要がある。
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達状況や課題について共通理解を持っているか。	7	0	送迎時に本日の児童の様子等を必ずお伝えし、加えて毎日日報として児童の様子が書いているものをHUGにて配信している。	
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	6	1	アセスメントや面談時に伝えるように心がけている。お電話等での困りごとに対しては迅速な対応を行っている。	他施設とも連携をしながら、イベント等企画しながら家族支援プログラムを進めていきたい。
保護者への説明等	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	7	0	契約時にご来所していただき、必ず対面で約1時間程度時間をとって丁寧に説明をしている。また、変更時も書面を作成し説明をしている。	
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	7	0	保護者様の意向に出来る限り沿い、放課後等デイサービス提供を作成している。また、中学生には自分の目標や今後の見通しを説明しながら意思確認を行っている。	
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	7	0	書面で同意を必ず得ている。また、個別支援計画書は中学生など理解が可能な児童には直接説明をしている。	
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	7	0	支援時間以外にお電話やメール等で保護者様の悩み事などをいただき、アドバイスや解決法などを提示しながらご家族様と共に支援を進めている。本人とも直接時間とお話することもある。	
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	3	4	保護者会等を希望しない方が多いが、家族参加型のイベントを多く企画し、ご家族同士の交流できる場を提供している。	
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	7	0	クレーム対応の研修を行い、適切な対応に努めている。困った際は、職員で共有し相談し迅速に対応している。	
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	7	0	毎日ブログの更新、毎月通信の配信をHUGにて行っている。また、イベントチラシを都度HUGで配信し、教室内と教室外に掲示をしている。	
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	7	0	研修を行い、ブログなど顔出しのチェックなどは、職員2.3人でやっている。	

非常時等の対応	44	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	7	0	イラストカードや紙面に文字媒体で記載して提示するなど視覚支援等を行っている。	
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	0	7		昨年までは公開トレーニングを11月に行い、近隣の方々にも見学に来ていただいていたが、今年度は開催できなかった為、今後地域の方と一緒にできることを模索していく。
	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	7	0	各マニュアル等はいつでも見ることのできる場所に置いてある。	
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	7	0	年に2回児童と職員が一緒に行う避難訓練を実施し、別でビル一体となって職員のための避難訓練、避難器具の使い方など定期的に行っている。	職員みんなでBCP作成の話し合いを行い、都度見直しを行っていききたい。
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	7	0	半年に一度面談時に新しく受診したかや、服用の薬などを、紙面と口頭でお聞きしている。	
	49	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	1	6	事前にアセスメントをしアレルギーがある児童に対しては、対応方法を保護者様と確認している。	必要に応じて、保護者様と連絡をとり医者との連携も検討していく。
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	2	5		安全計画を都度職員で見直し、より良いものを提供していきたい。
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	7	0		
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	7	0	サイン欄を設けて全員が確認したことがひと目でわかるようにしている。また、全職員参加の会議で改めて振り返るようにしている。	
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	7	0	虐待防止会議を2か月に1度行い、非常勤の方には紙面にて共有をしている。	
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	7	0	現在該当者がいないが、身体拘束等の研修や話し合いは行っている。		